

2024 第4回(通算14回)北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者: 丑屋 幸大(苫小牧)

【日時】2024年7月20日(土) 7月21日(日)

【場所】浜厚真野原公園サッカー場 苫小牧東高校会議室

【参加者】審判員: 高須賀哲平 丑屋幸大 及川凌夢 岩本駿士

インストラクター: 古曾部統太郎氏(RAM) 今川一輔氏(RAI) 伊藤真也氏(RAI)

オブザーバー: 二谷夢翔氏(強化指定審判員 7/20)

【研修テーマ】プロアクティブ マネジメント

7月20日(土)

8:30 集合 浜厚真野原公園サッカー場

10:00 試合実践 北海道学生サッカーリーグ1部

札幌大学 vs 北海道大学 主審: 丑屋 副審: 高須賀 二谷 担当 INS: 今川氏

〈主審振り返り〉

前半7分のファウルで雰囲気は飲まれてしまい、毅然さに欠けていたと思う。引きずらずにその場では切り替えられるメンタリティが課題であると感じた。後半開始からは立て直すことができたと思う。88分の札大 GK の接触の対応では主審としての強さが必要になる事象であったと思う。今一度接触があったときの対応を整理したい。

〈INS コメント〉

ターニングポイントであった7分の場面、あの事象をしっかりと判定判断出来なかったことで、選手やチーム役員からの信頼を損なう形になったことは否めない事実と感じました。その結果、毅然さが無く、萎縮したレフェリングになってしまったことは今後の課題でもあります。次回からは、その課題をしっかりと受け止めて、同じ失敗をしないように改善し、また失敗を引きずることなく、切り替えてゲームコントロールに努めてほしい。

12:30 試合実践

北海道学生サッカーリーグ1部

北翔大学 vs 北海学園大学

主審: 岩本 副審: 二谷 及川

担当 INS: 伊藤氏

〈主審振り返り〉

45+5分の学園55番に対する注意については課題が残る。ファウルであることは間違いないが、注意の際に「なぜファウルなのか」

をもっとわかりやすく明確に伝える必要があった。また、55番が一度逃げようとしてその後呼び止めたが、その際の言い方も上からになってしまったので、もっと諭すような言い方も考える必要があった。



〈INS コメント〉

意図のあるファウルに対して強い笛で判定することがフィールドにいるすべての人に伝わっていた。怪我人の対応も状態を見て素早く担架を入れる場面などリード感があってよかった。45+5分の55番への注意はこちらからは明確な注意に映りました。

14:30 移動

15:30 試合振り返り

16:10 審判員プレゼンテーション 『アピール・抗議・異議への対応』

審判員それぞれの成功体験・失敗体験・昨年度の第6回RACでの今川氏の講義から学んだことをPowerPointで資料を作り、プレゼンテーションを行った。言語化することで、出来るようになったこととこれからもチャレンジしなければいけないことを再確認することができました。また、他の審判員から新たな気づきや学びを得ることができ、とても有意義な時間となりました。

プレゼンテーションの様子を撮影し自分自身が相手からどう見えているのか、身振り手振りを有効に使えているか、視線や表情、抑揚などを客観的に見ることができ、パーソナリティの部分での課題を発見することができました。

17:00 諸連絡・解散

7月21日(日)

8:30 集合 浜厚真野原公園サッカー場

10:00 試合実践

2024 北海道リーグ ASC北海道 vs 札大GP
主審：高須賀 副審：及川 丑屋 四審：岩本
担当INS：伊藤氏



〈主審振り返り〉

選手の感情を踏まえながらも、許されないものに関して適切に対応することができた。選手が自分の説明や声掛けに理解をしてくれて、試合をスムーズに行うことができた。

前半ASC北海道20番が受けたファーストファウルと犯したファウルに関してコミュニケーションを取ることができ、選手との距離を考えることができ、試合に流れをもたらせることができた。

よいタイミング・声掛けをしていると思っていても、相手の感じ方を常に考え行わなければ火に油を注ぐことになってしまうこともあるので、今後も気をつけていきたい。

〈INS コメント〉

印象としては注意、マネジメントが形式的でなく、本質的であり明確であった(19分ASC20番、43分札2番、48分札2番)CK,FKのマネジメントも丁寧に正しい手順で的確に行っていた。●ボールの管理(ボールを入れる状況の有無)は試合状況を感じ取って対応したい。札10(退場)の場面で10番は4THに任せて試合を再開したい場面であった

12:00 移動・昼食

13:30 試合振り返り

14:30 競技規則講義 『ヘディングの競り合い』 担当：伊藤真也氏

映像を用いてヘディングの競り合いについて考慮事項を元に言語化し、その事象を整理した。普段の試合で無意識的に出来ていたことと出来ていなかったことが明確になり、判断するために必要な材料を増やすことができた。今後、迷いが生じてしまうような事象ではこれらの考慮事項を元に判定し、その精度を高めていきたいと思いました。

【考慮事項】

跳ぶ意思

プレーの可能性

プレーやボールの優先権

チャレンジの開始位置

接触部位

プレーする意図

15:30 諸連絡・解散

